

深夜労働はリスク大

OCCHIS 居眠り運転対策解説 第7回セミナー



【大阪】ヘルスケアネットワーク(OCCHIS)第7回OCCHISセミナーを開催。武田理事長は10月18日、「どうして居眠り事故を踏まえて交通安全」をテーマに

が「居眠りを取り巻く生理的メカニズム」と題して講演。「睡眠不足でなくても人間の生体リズムは1日に第1(深夜0時から6時)と第2(午後2時から4時)に眠気が強くなる」と説明した上で、「追突死亡事故が多発している発生時刻と眠気が強くなる時間帯がほぼ同じ時間帯であることが示された。」

安全管理者は自覚することが必要」と強調。「睡眠不足、夜間作業、長時間作業のリスクを自覚し、適切に眠ることが第一の対策」と説いた。

続いて、大阪センコー運輸整備の峯森吉和顧問が「居眠り運転を防止する運行管理者のあり方について」をテーマに講演。「運行管理者は単なる国家資格だけではなく、ドライバーを適切に観察し判断できる経験が必要」とし、「人間的な対面点呼が大切。健康診断の結果を把握して、ドライバーの健康管理の徹底に努めていただきたい」と訴えた。

さらに、OCCHISの黒田悦子保健師が「健康管理の側面から考える居眠りへの取り組み」を、作本貞子理事が「両輪会のテーマと事業者の目線から浮かび上がった内容」を、酒井一博氏からのメッセージ紹介について説明した。パネルディスカッションでは、武田理事長がコーディネーターに、講演者がパネリストを務め、活発に意見交換が行われた。(山田克明)